

特定看護師の活動体制の構築に向けて ～現状と課題～



令和6年11月28日



白山石川医療企業団

公立つるぎ病院

酒井 尚美

白山石川医療企業団の役割

住み慣れた地域で安心して暮らせる“まちづくり”

高度先進医療
急性期医療

松任石川中央病院病院



つるぎ病院



へき地診療
巡回診療

在宅医療
訪問診療

予防医療
総合健診センター
フィットネスクラブ

介護・福祉サービス
地域包括福祉支援センターおかりや
ショートステイ
地域密着型特別養護老人ホーム
サービス付き高齢者向け住宅

白山ろく総合診療センター
吉野谷診療所
中宮診療所
白峰診療所

介護・福祉サービス
在宅療養支援
居宅介護事業所
白山市地域包括支援センター鶴来
ショートステイつるぎ
通所リハビリテーションセンター
訪問リハビリテーション

この地域全体の医療を支えるための取組み

看護師特定行為研修により、看護師の活躍の場が広がり、
地域全体の医療の質の向上につながる体制を構築

公立つるぎ病院の概要

基本理念

私たちは、みなさまの健康な生活を支えるために

- 期待にこたえられる良質な医療・介護に努めます
- 安心・安全で信頼される医療に努めます
- 切れ目のない包括的なケアに努めます



- ◆設置団体：白山石川医療企業団
(構成団体：白山市、野々市市、川北町)
- ◆病床数：152床
地域包括医療病棟 45床
回復期リハビリテーション病棟 53床
地域包括ケア病棟 54床
- ◆診療科：20科
- ◆在宅療養支援病院 へき地医療拠点病院
- ◆職員数：看護職員123人（看護補助者23人）
医師11人（常勤）
認定看護師6人 特定看護師7人
(認定特定看護師2人含む)
認定看護管理者2人

(R6年10月時点)

白山石川医療企業団が運営する病院・診療所

公立松任石川中央病院
(指定研修機関)
特定行為研修センター

《地域の特性》

高齢化率 (R6年1月現在)

白山市全体 28.7%

鶴来地区 27.9%

白山ろく地区44.4%

当院に入院される方の54%は旧鶴来・白山ろく地区の方

つるぎ病院
協力施設



吉野谷診療所



中宮診療所



白峰診療所



つるぎ病院における特定看護師に求める姿

地域の中核病院の看護師として

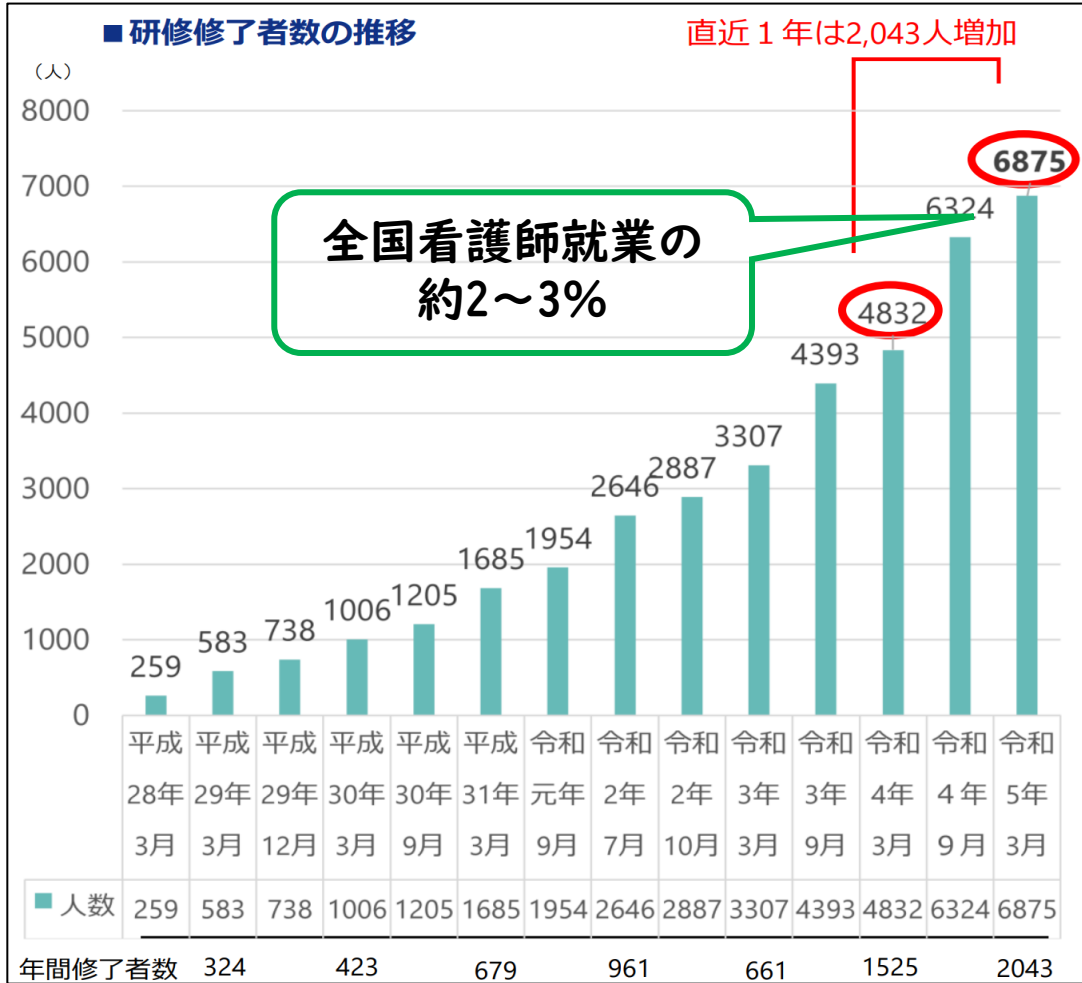
- 在宅療養支援病院 へき地医療拠点病院の看護師としての役割発揮の重要性
- 常勤医師が少ない中で看護師の的確なアセスメント・対処力が求められる
- 地域住民の高齢化への対応 地域ネットワークを通し地域住民の健康維持への寄与

あるべき姿

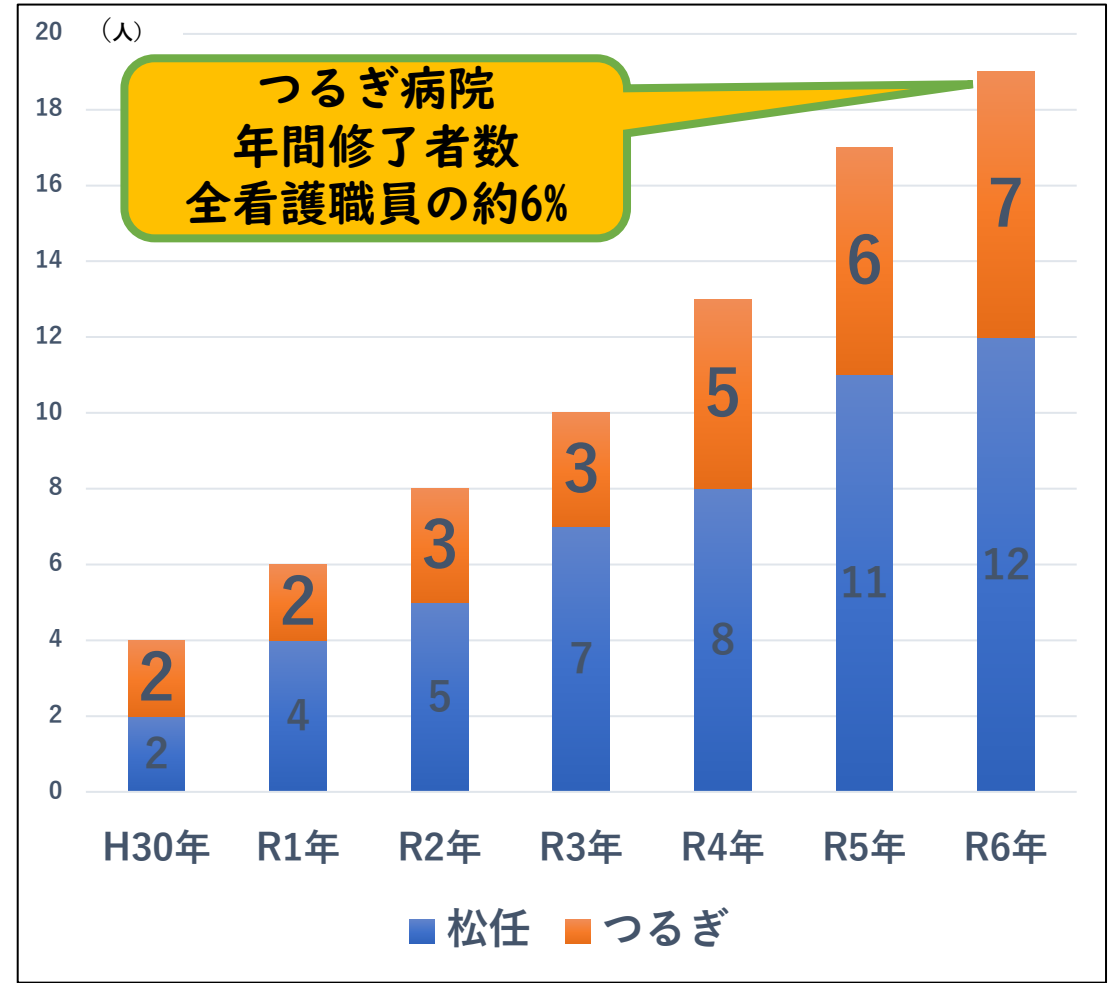
地域における医師の偏在化や高齢化に伴った在宅療養看護のニーズが増加している中で、特定看護師が迅速な判断かつ高度な専門知識・技術を実践することにより地域の医療を充実させ、医療・介護・福祉・暮らしを守ることを使命とする

研修修了者の推移

全国研修修了者数の推移 (R5年8月現在)



企業団内年間修了者数

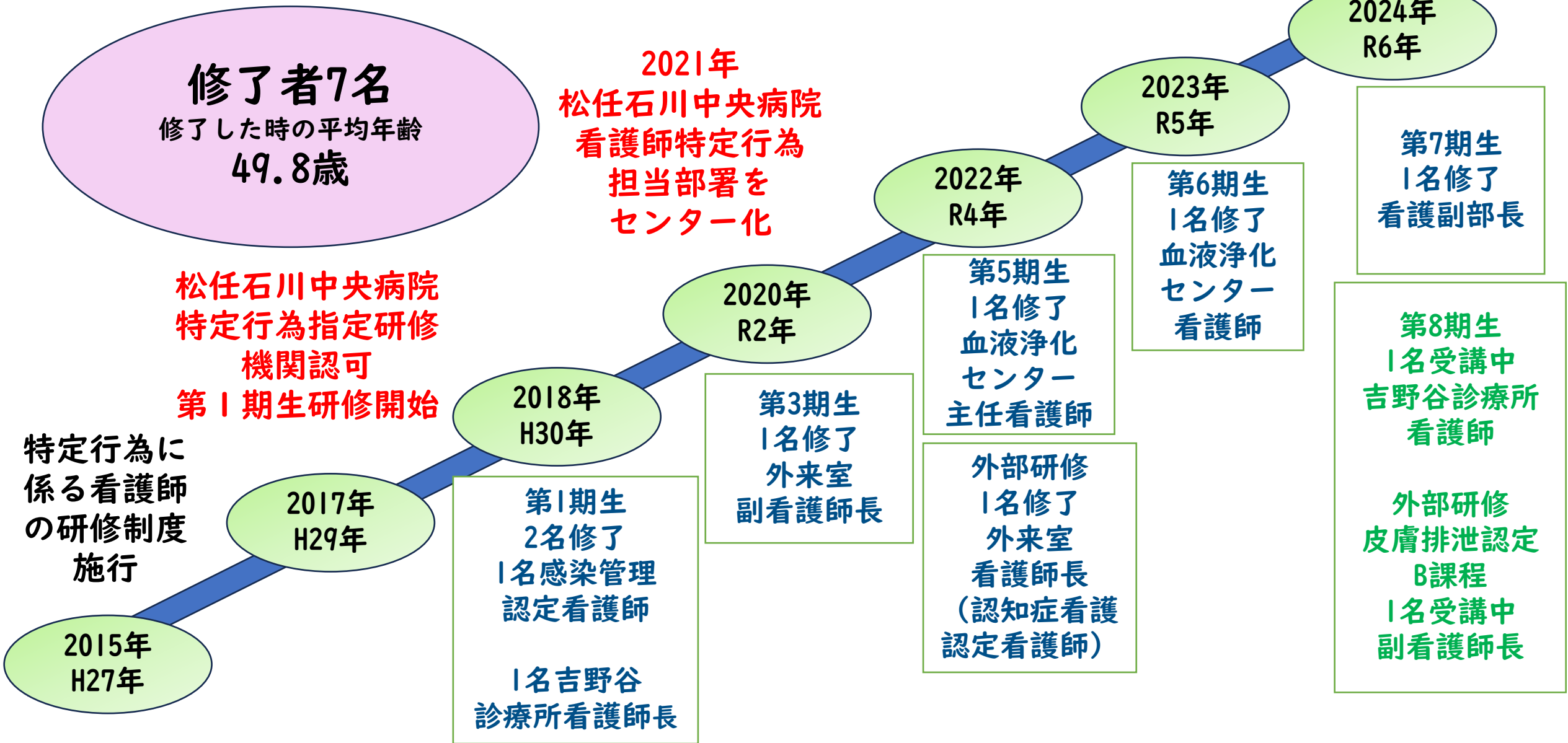


企業団の看護師修了特定行為区分

つるぎ病院は5区分修了7名（今年度は2名受講中）

特定行為区分	つるぎ病院	松任石川中央病院
栄養および水分管理に係る薬剤投与関連 (共通 全員受講)	7名	11名
感染に係る薬剤投与関連	1名	1名
透析管理関連	1名	3名
CVC関連	0名	3名
PICC関連	1名	2名
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	1名	0名
腹腔ドレーン管理関連	0名	2名

当院における特定行為研修受講及び修了者の経緯



育成・支援・活用支援を推進に向けたプロセス

参考資料

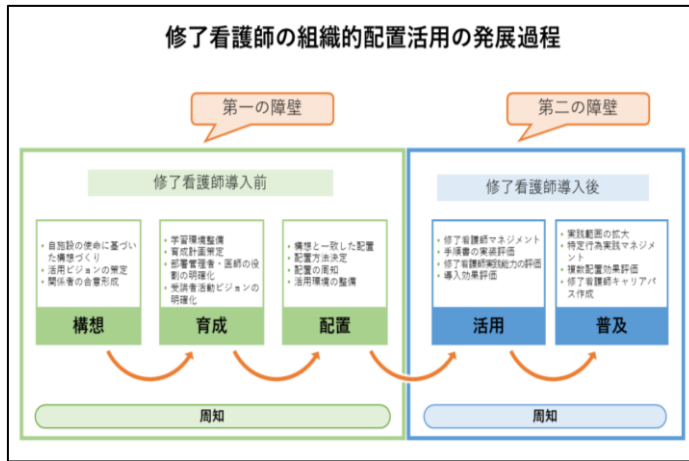
酒井郁子他

2022年「特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイド」

体制の整備課程

- ・ **構想**：組織の理解 導入目的の明確化 管理組織組成
- ・ **育成**：研修受講生の受講支援
- ・ **配置**：研修修了看護師の配置
- ・ **活用**：特定看護師活動の環境整備
業務実施基準・手順書作成（運用）などの整備
- ・ **普及**：院内外活動支援（出前講座 院内啓発など）

修了看護師の組織的配置活用の発展過程



構想

特定看護師活動整備 組織体制

看護師特定行為業務委員会

年2回開催

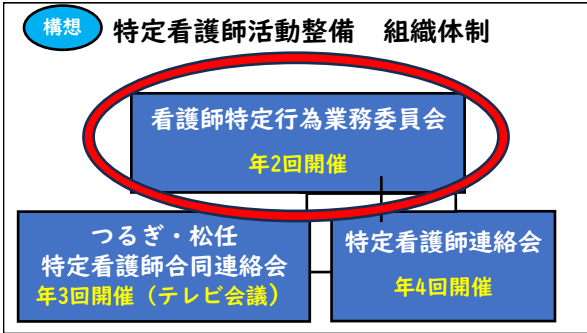
つるぎ・松任

特定看護師合同連絡会

年3回開催（テレビ会議）

特定看護師連絡会

年4回開催



看護師特定行為業務委員会

委員会運営

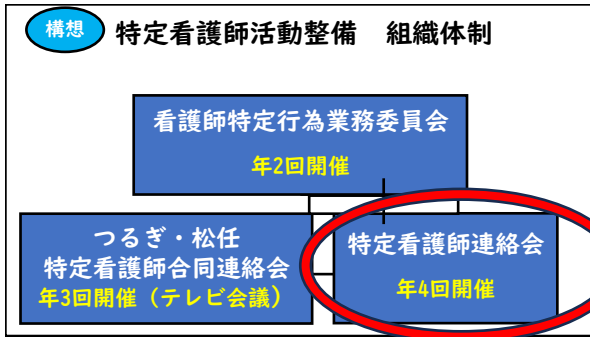
令和3年2月設立 院内承認を得て運用開始 (年2回)

目的

- ・ 特定看護師が実施する特定行為全般に関する事項を協議する
- ・ 特定行為に使用する手順書に関する事項を協議する
(妥当性の検証や症例検討等も含む)
- ・ 看護師特定行為について院内外への周知に関する事項を協議する

メンバー

病院長 (委員長) 診療部長 総務部長 看護部長 看護副部長
医療安全管理者 医療技術部長 教育研修部長 特定看護師



特定看護師連絡会



委員会運営

令和2年度より運用開始（当初は毎月開催していたが現在は年4回開催）

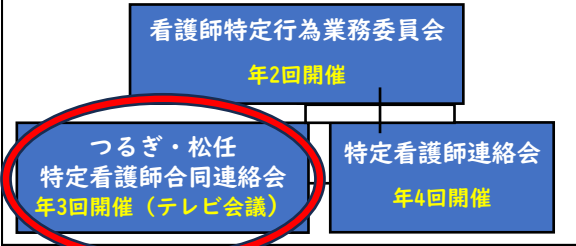
看護師特定行為業務委員会の下部組織

目的

- ・ 特定看護師が、実践・指導・相談の3つの活動を行うにあたり、諸問題の相談の場とし、諸問題や課題、要望を共有する
- ・ 共有した問題を検討する場とし、特定看護師の活動支援や関係各署への交渉方法を検討する

メンバー

特定看護師 看護部長 看護副部長 教育研修部（事務局）



特定看護師合同連絡会（つるぎ・松任合同）

特定行為研修の
センター長と専門員が
バックアップ



連絡会運営

令和2年度より運用開始（年3回開催）

目的

- ・ 実践・指導・相談の3つの役割を果たす特定看護師が活動を行うにあたり、諸問題や活動困難な理由を浮き彫りにし連絡会で共有する
- ・ 共有した問題などを連絡会で検討し、関係部署への交渉や活動支援、相談の場とする

メンバー

松任特定行為研修センター長（兼松任診療部外科部長）

両病院特定看護師18名

看護部：つるぎ 看護部長 看護副部長
松任 副看護部長

庶務（連絡担当）：つるぎ 教育研修部参事

松任特定行為研修センター専門員（元教育研修部長）

支援者も顔の見える
関係性が重要

特定行為研修受講の支援

目標管理面接などの機会に受講希望者の情報を共有し看護部長による面接で意思確認

特定看護師の受講条件

- ・ 看護師経験5年以上
- ・ 当院のクリニカルラダーⅢ以上
- ・ 委員会・WGなど横断的活動、一定期間勤務継続、自己研鑽

自信がない・不安と感じている
看護師へは支援の働きかけはするが、
最終的には本人が意思決定する

受講中の支援

- ・ 研修費の負担
- ・ 共通科目 e-ラーニング視聴時間と学習環境の確保

病院内で学習環境の確保が困難
自宅での視聴も可能としている

特にR5年度はマンパワー不足のため勤務時間内の確保は困難だった

当院の特定看護師の配置

Ver3 特定行為研修修了者の活用・配置の分類と例

A

部署の患者マネジメントを自律的に実施し、部署の診療ケア管理に貢献する

メリット	医師の働き方改革に最も効果的
課題	医師の働き方に影響が出るまでに長期間かかる

- 包括的指示による患者マネジメント
- 医師と離れて活動

B

限定された患者集団のマネジメントを自律的に実施する

メリット	看護管理者が活用しやすい
課題	医師の働き方改革に影響がでるまで時間がかかる

- 活動例：褥瘡管理、栄養管理、感染管理などのチームに所属し、
などで組織横断的に活動する
- 活動例：外来に所属し外来通院室、侵襲的検査室などで活動する
- 活動例：診療科に所属し、周術期管理、院内急変対応などを行う

**医療安全部感染対策室1名
(感染管理特定認定看護師)**

**外来室2名 (訪問診療、入院時支援)
血液浄化センター2名 (1名は腎看護外来)
看護部1名 (病棟統括教育担当)**

上のように配置し状況に応じて複数
メントを行う

に配置し、せん妄ケア、呼吸循環、
トを行う。またドレーン管理を行う
ることにより部署の臨床推論能力を

縦軸
活用
ビジョン

部署
固定配置

横軸：配置

組織横断型配置

C

限定された医療処置を医師の指示により患者に適時適切に実施することにより適切なタイミングでのケア提供に貢献する

メリット	特定の診療科およびルーラルではタスクシフトに貢献
課題	医師と看護師の信頼関係がない場合実用化できない

吉野谷診療所1名

活動例：手術室で麻酔管理補助、手術介助などを行う。

活動例：病院からアウトリーチして医師とともに在宅療養
支援を行う (COVID19,緩和ケアなど)

- 具体的指示による医行為実施
- 医師とともに活動

活用

特定看護師の活動状況

(吉野谷診療主任所看護師長)
訪問診療患者の対応
NST (栄養サポートチーム) 活動

感染管理関連
栄養及び水分管理

(医療安全副部長)
感染管理専従 適正抗菌薬の提案
AST(抗菌薬適正使用支援チーム)
地域医療者対象感染研修
院内外講師多数

栄養及び水分管理

PICC関連・CVC関連
栄養及び水分管理

(外来室看護師長)
PICC管理
入院支援
訪問診療 巡回診療

(外来室看護師長)
認知症支援ラウンド
出前講座

精神・神経症状管理
栄養及び水分管理

透析管理関連
栄養及び水分管理

(血液浄化センター主任看護師)
腎看護外来担当
NST活動

(看護副部長) R6年10月修了
ICT (感染対策チーム) 活動
NST活動

栄養及び水分関連

栄養及び水分管理

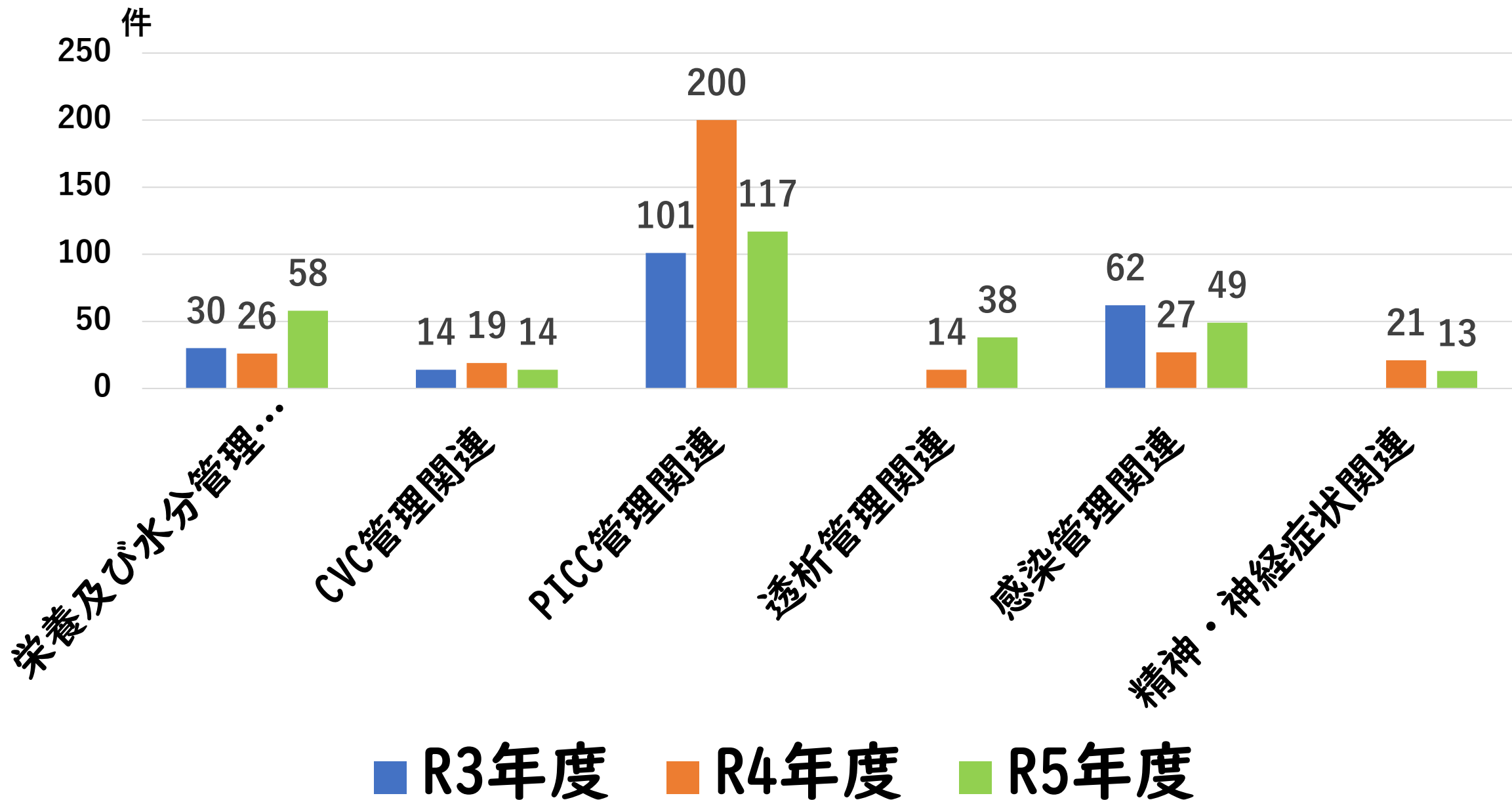
(血液浄化センター看護師)
NST活動

活用

訪問診療先でPICCポートトラブル対応

事例紹介

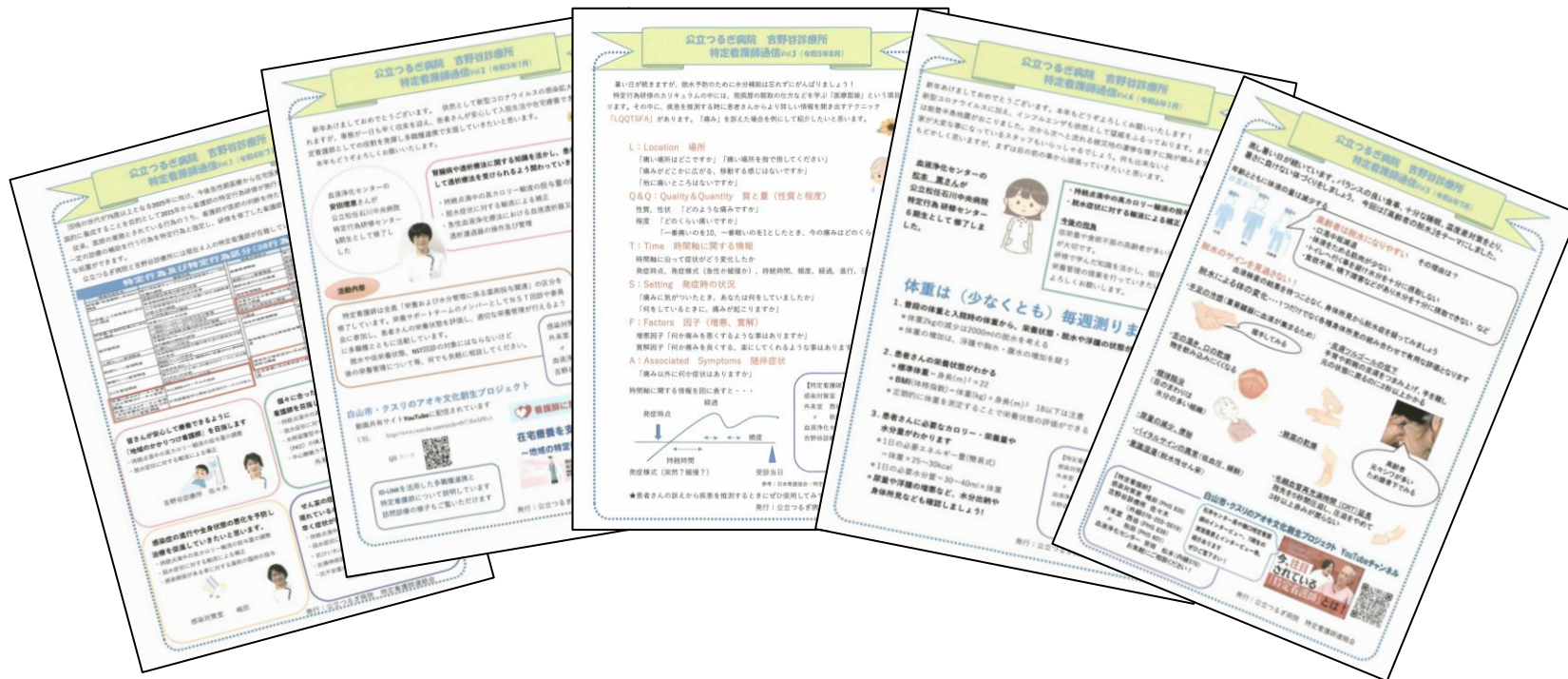
つるぎ病院特定看護師の各区分活動件数の推移



普及

修了看護師による年間活動

- 修了看護師による研修受講報告会（全職員対象に年1回）
- カテーテル感染防止研修会開催（年1回）
- 特定看護師通信発刊（年2回）



地域活動

- 地域の医療機関に向けた普及活動（在宅医療連携カンファレンス）
（当院：白山市在宅医療と介護の連携事業事務局 機能強化型在宅療養支援診療所・支援病院）
- 地域に向けた病院広報誌での普及活動



これまでの成果

- パートナーシップのとれる指導医の理解
→ 継続したバックアップ
- 医師の認知度アップと企業団内職員の安定した連携
→ PICCの依頼件数増加 両病院看護師協力体制構築
- チーム活動へ参加することで専門性を発揮
→ リスペクトし合いモチベーション維持
医師と一緒に考え、検討する・評価する
- 全員が修了後1年以内には特定活動に取り組めている

今後に期待すること

- 学んだ知識や技術の提供の機会を増やす
→ 看護師全体の特定行為への関心・意欲の向上
- 修了者のアセスメント力の可視化
→ 看護師全体の質の底上げにつなげる
- モデル看護師として後輩育成

今後の課題

- 地域とのネットワークの強化
 - 地域に出向き、顔の見える連携を大切にする
- 毎年1人ずつでも受講者を輩出し続ける
 - 特定看護師がいることが当たり前前の文化にする
- 特定看護師が活動しやすい環境づくり (活動時間の確保など)
- 特定行為を実施するにあたっての医療安全管理体制
- インセンティブの付与の交渉

ご清聴ありがとうございました

